

InterRidge-Japan 連絡会 2016

日時：2016/5/25 12:30-13:30

場所 幕張メッセ 101B

参加者：浅田、阿部、石橋、沖野、川口、木下、佐藤（太）、島、土岐、戸塚、針金、藤井、富士原、松野、道林、渡部

1. 国際状況

- 富士原さんから、2015年9月に中国杭州で行われた 3rd InterRidge Theoretical Institute と StComm について報告。IRTI は、多くの国から参加があり、日本の貢献も大。藤井さんが学生優秀発表賞を受賞。中国の学生の参加が非常に多く、彼らへの教育の意味合いもあった。
- 引き続き行われた StComm も前回不参加であった米独も含め参加者が多く盛会。次期オフィスに立候補したフランスから運営プロポーザルが出され、審議の結果承認した。若手育成に関してサマースクール等のアイデアが出され、検討中。詳しくは StComm 報告（ウェブに予定）を参照。
- 次回 StComm は 2016.8.29-30 にパリ

2. 国内活動

- StComm 委員の富士原さんの任期が今年までなので、次期委員を富士原さん中心に選定する。現在の委員構成からすると、生物・化学系が望ましいか。
- メンバーシップフィー5,000\$は、2015年分は JAMSTEC と AORI で 2,500\$ずつ支払い。2016年も JAMSTEC に半額負担の申請を行う。大学側は、AORI は支払い可能であるが、九大石橋さんとシェアできるか検討。
- 2015.12 に InterRidge-Japan 研究集会を AORI 共同利用集会として実施。SIP 等広く声をかけて沖縄トラフのセッションを設定した効果があり、参加者は初日 70 人越。2016 年度の集会予定はないが、2017 年度開催に向けて今秋共同利用集会申請を行う。自由投稿の他にテーマを設定したセッションを設けてコミュニティ拡大を図ることが重要。今回は蛇紋岩化をテーマとし、藤井さん中心に講演者・企画を練る。

- 来年度 JpGU-AGU 完全共同大会となるため、InterRidge-Japan として Hydrothermal Systems 関連で国際セッションを提案する。9月にセッション募集開始予定。石橋さんを中心に行う。海洋底セッションは通常通り開催の予定。

3. 中国による沖縄海域研究と発表への対処の議論

- 昨秋の杭州の IRTI において、中国による沖縄トラフ海域（伊平屋海嶺周辺や第四与那国）の熱水調査研究発表があった。この研究のもととなった中国船による ROV 調査は、日本政府の EEZ 内調査許可を得ていない。
- IRTI の成果の一つとして、講演もしくは関連研究をまとめた論文集の刊行が計画され、現在 Marine Geophysical Research の特集号として論文募集中の状況である。“Magmatic and tectonics processes, and seabed resources of the middle ocean ridge system” led by Ding Weiwei of The Second Institute of Oceanography (State Oceanic Administration) of China and Minghui Zhao of the South China Sea Institute, China.
- InterRidge の名前の元でこのような発表が行われるのは日本側としては容認しがたい。ただし、雑誌としては科学的に問題がなければ出版阻止することは困難であるし、InterRidge としては政治から距離を置いて独立した科学的立場を取るというのが現時点でのスタンス。
- IRTI 後に、島さんが次期（現）チェアの Jerome Dymant に、IR の成果としてこのような論文が出ないように注意する、容認されるようであると日本の研究者が参加できないことにつながる、との話をし、合意を得ている。
- ただし、その後、MRG 誌の特集号については編集委員会が独立して進めているようで、状況が不透明。
- 近日中に、InterRidge-Japan として文書でオフィスに申し入れを行う。内容としては、1) 沖縄海域の日本の EE 内において中国が周辺国の同意を得ずに実施した調査航海のデータを IRTI において見た、2) この海域は EEZ 画定に関する係争地であり、IRJapan はなんら政治的立場を主張するものではないが、これまで国際法・慣習にのっとり沿岸国の立場を考慮して科学調査を実施してきた InterRidge の枠組みや、この海域の継続的な科学調査に影響が出ること強く懸念している、3)

IRTI 後に企画された MGR 誌の特集号について、もし当該研究成果が論文として含まれるようであれば、この特集に InterRidge の名前を冠することは止める配慮をお願いしたい。InterRidge がこの調査を容認したと解釈されると、日本の研究者が InterRidge の活動に参加することが困難になる可能性もある。

4. 情報交換

- 2014 年に行われた JAMSTEC 大型研究航海 WS で提案されたプロポーザルのなかで、最終的に 4 プロポーザルが採択された。太平洋の Moderator の木下さんから、太平洋航海について説明があった。
- 阿部さんから、みらいチリ沖航海について情報提供あり。2017.1.20-2.5 でドレッジ、ピストン、OBS 設置。
- 阿部さんから、モホールサイトサーベイのハワイ沖調査について現状報告。海洋動物保護関係の手続きを行い、所内利用申請を提出済み。6 月に審議予定。

宿題：

- ・次期委員の選定：富士原
- ・AORI 共同利用集会申請：藤井
- ・JpGU-AGU セッション提案：石橋
- ・中国観測船問題についてオフィス宛て文書作成：沖野

会場費寄付：14 名 14,000 円